

<川越市>

ドキュメンタリー動画が配信開始

新井喜一元市議ハラスメント疑惑の真相に迫る

本紙も総力取材で報じてきた「新井元川越市議ハラスメント疑惑」について、新たにドキュメンタリー動画『**Kー川越市議ハラスメント疑惑の真相**』が制作され配信が開始された。

<https://youtu.be/HZxsEbMDvdQ>

川越市長・川合善明氏が原告となった名誉毀損裁判（3月14日判決言い渡し）で被告となっている国際的なドキュメンタリー映画監督「土屋トカチ氏」と同じく国際派映画監督として著名な「GEN TAKAHASHI（高橋玄）氏」がタグを組んで制作しているが、プロデューサーを務める高橋氏から本紙に、本作動画の制作と配信の一報が届いた。

1回が約10分ほどの動画を短期間で「連続配信」していくという。

第1回目は昨日2月6日から配信され、早くも川越市政関係者の間には激震が走っている。本紙の取材に高橋玄氏が本作動画制作・配信の主旨を語ってくれた。

高橋氏：

「新井氏の件に関しては僕も土屋監督も部外者でしたが、川越市長に名誉毀損で訴えられた身としては他人事じゃないんです。川越市政に近い人ならだれでも知っていることですが、新井氏は反川台市政の立場が明確な政治家でした。

私も取材を受けた貴紙（行政調査新聞）の連載記事を拝読しましたが、新井氏のハラスメント疑惑は、どうも最初から怪しさが満点です。ところが、マスコミがワーツと新井氏バッシングを書き立てて、あとは沈静化している。あれ？被害を受けたという女性職員は、そもそも訴えると言ってたんじゃないの？と。結局、真相が明かされないまま、なし崩しになって、ひとりの政治家とその家族が風評被害を受けておしまい。これはあまりにも不可解です。そこで僕と土屋監督で、新たに映像取材を開始した」

本紙「独自に始められたということですか？」

高橋氏：

「そうですね。活動に賛同してくれる方々からの寄付もありますが、商業公開する映画ではないですから収益化されないという意味ではボランティア活動です。しかし、始めた価値はあります。実際に被害を受けたとされた現場のお店に行って、映像で再現フィルムを撮ってみたら、新井氏がここで<太ももを触る>なんてセクハラが不可能なことが視覚として明らかになりました。こういうことは、見出しで簡単に片づける新聞では伝わらないし、もともと大バッシングに乗ってしまったメディアは責任を取りたくないから修正する追加報道もしないでしょう。それなら、僕たちのような部外者が真相に迫ろうじゃないかと、そうなったわけです」

本紙「動画配信という手法の狙いはなんですか？」

高橋氏：

「いまは国際政情でさえSNSで動く時代ですから。スピードも早くて、どこでも見てもらえます。SNSで見てもらい、拡散しやすいように1回で10分程度の動画を連続配信することにしたんです。これは新井氏だけの問題じゃないから普遍性があるテーマですし、多くの視聴者が注目すると思います」

本紙「普遍性とは具体的にどのような点で？」

高橋氏：

「つい先週のことですが、元・明石市市長の<火をつけてこい！>との隠し録音公開されて市長は辞職しましたね。あれも暴言として大バッシングで報道されましたけど、後に発言の続きがあったことが判明して、むしろ元市長を擁護する声が高まりました。新井氏の件でも、僕らが新たに取材したら、第三者委員会は調査と言いながら、録音を全部聞いていないことがわかった。どんな調査をしたんだよって(笑)……。

実は、マスコミは面白おかしく書き立てて報道することが商売で、真相を究明する立場じゃありません。捜査機関じゃないですから。フライングでバッシングに走ったとしても、マスコミとしては<記者会見を報じただけですから>と言えば済むんです。ところが、仮にも新聞で報道すると大衆はそれを真実だと錯覚してしまう。えん罪事件のほとんどにマスコミの問題がつきものです。新井氏のケースは、まだ決着がついていないからこそ、こうした問題を現在進行形で考える題材になる。それが普遍性という意味です」

本作動画は著名なドキュメンタリー監督が手がけることも異例だが、ナレーションを読売テレビ・日本テレビ系「遠くへ行きたい」や日本テレビ系列「きょうの出来事」などで知られる石野ゆうこ氏が担当するなど、社会的な関心の広がりを感じさせる内容となっている。本紙としては、もちろん「拡散希望」だ。